

呈上 750 周年を前に、国宝中山法華経寺本をわかりやすく読み直した画期的一冊！

読み解く『立正安国論』(中尾堯著)

大好評発売中！この機会に是非ご一読下さい



本文見本

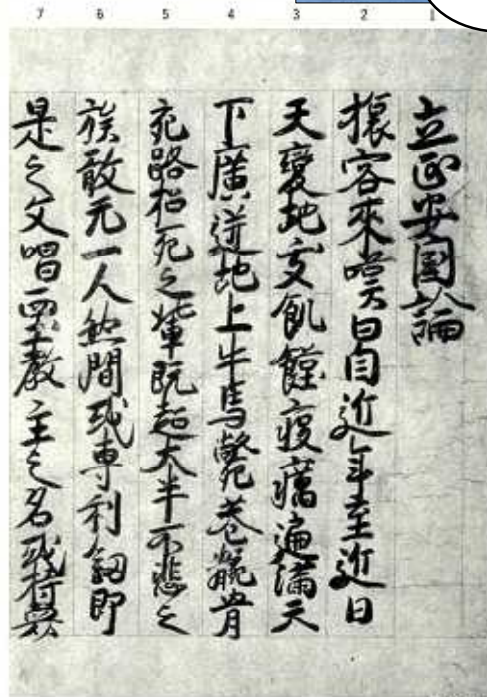
「ご真蹟の筆遣いについてのコメントや用語解説・古文書の見方など、古文書研究第一人者の著者の知識が盛り込まれたオリジナルの「観想」。」

第一章 脱出する災難を見つめる

1 立正安国論

旅客来嘆曰、自近年、至近日、天変地大、飢饉疫癘、遍滿天下、広く地上、牛馬鬻り、骸骨充路、招死之輩、既超大半、不悲之族、敢無一人、然則、或尊、利劍即是之文、唱、西土教主之名、或侍衆

〔観想〕
① 表題の「立正安国論」の書体は、拙の写本にみるのとみな同じです。北宋時期に呈上された浄書本も、恐らくこのような書体を用いられたことでしょう。
② 表題と本文初めの部分は、全体的に硬い感じですが、筆が進むに従って、次第に圓滑な本来の筆致にもどっていきます。日蓮聖人がこの一番を揮毫されたにあたって、相当の緊張と意気込みをいだかれていたことを、その筆跡がよく物語っています。
③ 第一紙の裏付の幅は、第二紙よりも幾分狭くなっていて、最初を一行ほどあけて、三行目から標題を揮毫されたことがわかります。現在は半行分の空白が現れています。



【第1紙】

- ・写真と本文・読下し文が見開きに収まり、見やすい構成。著者による「観想」も必見です。
- ・写真の各行に行番号を付け、「本文」や「観想」、解説部分でも照合でき、わかりやすい！

歴史学の視点を背景にした丁寧な解説と、本文のわかりやすい意識。訳部分には、本文の行番号を付け、本文写真との照合も容易です。

「立正安国論」の冒頭から内容を見ていきましょう。最初の行には「立正安国論」の表題の名称が、やや草書体の文字で掲げられています。日蓮聖人の名はありませんが、江戸時代の初期にあたる慶長九年（一六〇四）に、日蓮上人が身延山を厳密に守護された京都本願寺本も、中山法華経寺本と同様です。それは、拙文作成者の名をここには書かないという、伝統的な文書様式に従ったことでしょうか。北宋時期に呈上された原本も、この形式であったはずですが、本文は、次の行から始まります。

想像を絶するような災難が、此むことのないようにうち覗くある日、一人の旅人が旅宿に泊り、道中目にした世情を、ため息まじりに嘆き語りました。訪れた旅人と、旅宿の主人との対話というかたちで、「立正安国論」ははじまります。

表題の「立正安国論」の五文字に続いて、「旅客来たりて嘆きて曰く」という、あまり見慣れない、出づる有名人「旅客」が、改行した本文の冒頭を飾ります。その「嘆」との言葉を、ますますかかいていきましょう。（二〇一六）

近年から近日にいたるまで、天変や地大をはじめ、飢饉や流行病が天下にたくましく満ち溢れ、猛烈な勢いで地上に広がっています。やせ細った馬や牛は道端に倒れて死に、その骸骨は道のほとりにはげいで散らかっています。

それは牛馬だけではありません。人も同じように悲惨な目にあっているのです。天災にあつて悔を負い、病氣になつて潰れたり、世道のうちには死を連ねる人々は、もう世の人の大半を超えています。

中尾 堯 の著書一覧 (臨川書店刊)
いずれもハンディな四六判、やさしい説き解りの文体です

読み解く『立正安国論』
302頁 / 定価2730円(税込) ISBN978-4-653-03988-4

日蓮聖人のご真蹟
264頁 / 定価2520円(税込) ISBN978-4-653-03942-6

日蓮聖人の法華曼荼羅
256頁 / 定価2520円(税込) ISBN978-4-653-03946-4

佛日蓮宗新聞社お取り扱い書籍です。
お近くの書店、小社へもご注文いただけます。

臨川書店

本店 〒606-8204 京都市左京区田中下柳町8番地 TEL075-721-7111 FAX075-781-6168
東京支店 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-11-16 TEL03-3293-5021 FAX03-3293-5023